

令和7年1月15日
独立行政法人水資源機構
利根導水総合管理所

利根川と荒川をつなぐ武蔵水路の空水点検を実施します ～首都圏の水を支え、地域を水害から守る大切な水路の健康診断～

みずしげんきこうとねどうすいそうごうかんりしょ

水資源機構利根導水総合管理所が管理する武蔵水路は、利根川から取水した水を荒川へ導水し、東京都、埼玉県の皆様の生活や社会経済活動に欠かせない水を昭和43年の管理開始以来、たゆまず送り続けるとともに、水路周辺にて大雨がもたらす洪水を排水し、浸水被害を防止・軽減する、毎日の暮らしを支え守る重要な役割を担う施設です。

このたび、水路機能の健全性を確認するため、武蔵水路改築事業で2連化された水路の片側を止めて実施する「水路の健康診断」（機能診断調査）の状況を次のとおり報道関係の皆様にご公開します。

水路内を点検できる機会は、水道事業者との導水量の減量調整もあり、需要や降雨が少ない極めて限られた時期に限定されます。今回の調査では、道路下の水路構造（サイホン）部での調査を平成28年に武蔵水路改築事業完了後、はじめて実施します。

○日時 令和7年1月21日（火）14時30分～15時30分

○集合場所 利根導水総合管理所

※埼玉県行田市大字須加字船川4369（利根大堰右岸側）にて、当日13時30分から受付後、14時に現地へ機構車両にて案内します。

○実施場所：長野サイホン（埼玉県行田市長野 富士見交差点付近）

※現地は駐車スペースが無いので、直接来訪はできません。

○取材申込：1月20日（月）12時までに事前申込

※別紙「取材にあたってのお願い」をご確認いただき、必要事項をメールにてお知らせ下さい。

発表記者クラブ：国土交通記者会、埼玉県政記者クラブ、水資源記者クラブ、竹芝記者クラブ、熊谷記者クラブ

お問い合わせ先：利根導水総合管理所 総務課長 菊地
電話：048-557-1501（代表）

武蔵水路空水点検「取材にあたってのお願い」

1. 当日スケジュール（予定） 令和7年1月21日（火）

- 13:30 利根導水総合管理所にて受付
※埼玉県行田市大字須加字船川4369にお越し下さい
- 14:00 調査実施場所（長野サイホン）へ機構車両にて移動
※機構が用意する車両にて調査実施場所へ移動します。
※14時までに受付いただけない場合は、参加できません。
- 14:30 現地にて今般の調査概要等を説明、現地確認
※約1時間かけて現地での状況を取材いただけます。
※調査概要、位置図等は、別添参考資料をご参照ください。
- 15:30 現地出発、利根導水総合管理所到着後、解散

2. 取材にあたってのお願い

①安全に留意ください

調査実施場所は、通常、人が立ち入れない箇所にて実施します。

取材にあたり、十分安全に配慮しますが、現地取材にあたっては、ヘルメット、長靴、安全帯を着用いただき、案内誘導に従って行動いただくとともに、調査の妨げや他の参加者に迷惑となる行為は、お控えください。

※ヘルメット、長靴はご持参いただけますが、必要な方は用意しますので、受付の際、申し出てください。

※当日は小雨でも調査は実施しますが、降雨に備えカッパ、タオル等をご持参ください。

②取材できない場合

次の場合は、取材いただけないことがあります。

- ・インフルエンザ等の感染症を患うなど、当日の体調が優れない場合
- ・気象条件、災害発生等により当日の調査を中止する場合

3. 取材の事前申込み

取材希望される方は、次の事項を記載し、メールにて1月20日（月）12時迄に申込みをお願いします。メール記載内容は、本目的以外に使用しません。

- ・メール件名 【取材申込】武蔵水路空水調査
- ・メール本文 報道機関名、取材される代表者名（ふりがな）
取材される人数（スタッフを含む）
当日の連絡先（携帯電話番号）
- ・メール宛先 jwa_tonedousui@water.go.jp 利根導水総合管理所総務課

(参考資料) 武蔵水路の空水点検について

1. 水路を空水にして点検することについて

常時導水する武蔵水路は、将来にわたり施設の健全性を確保するため施設の状況を点検することが必要です。

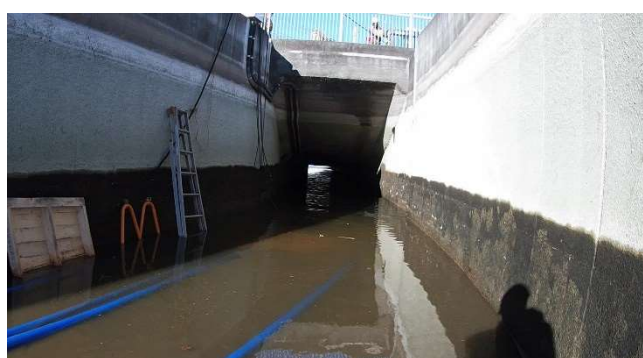
点検するためには、水路を空水にする必要がありますが、武蔵水路改築事業（平成28年4月から運用）で水路を2連化したことにより、一時的に片側の水路の導水を止めて空水にし、水路の状況を点検することが可能になりました。

一方、水路を空水にするためには、水道事業者との間で導水量の調整や雨が深い時期を避ける必要があります。延長約15kmの水路の点検箇所を細分して、極めて限られた期間に実施する必要があります。

2. 今回の点検箇所

今回の点検は、令和7年1月7日から1月27日にかけて実施しており、道路下の水路構造（サイホン）部では、武蔵水路改築事業完了（平成28年4月）後、はじめて実施します。

(点検実施状況) 令和7年1月14日



3. 案内図



4. 武蔵水路の役割・歴史

東京近郊では、昭和 39 (1964) 年に東京オリンピック開催を控え、高度経済成長により産業や人口が急激に増加し、慢性的な水不足が発生していましたが、矢木沢ダムなどの利根川の水源地施設や利根大堰、武蔵水路、秋ヶ瀬取水堰などの取水導水施設とともに一体的に建設し、昭和 43 (1968) 年から運用が開始された以降、利根川の水を荒川へ導水し、今日も東京都内で使用される水の約 4 割がこれらの水資源機構が管理する施設から供給されています。

当初建設された武蔵水路は、老朽化や耐震化のため、また、治水機能（内水排除）が強化された施設に改築され、平成 28 年 4 月から運用しています。

※ 詳しくは、ホームページ、YouTube 紹介動画をご覧ください

利根導水総合管理所ホームページ

武蔵水路紹介動画

